

SOULNOTE クロックジェネレーター

X-3 の衝撃

X-3

SOLNOTE のクロックジェネレーターX-3 は、同社のフラッグシップ DA コンバーターD-3 の専用クロックと捉えられがちですが、他の DA コンバーターのクロックとして使用しても、高い実力をいかんなく発揮します。

TEXT & PHOTO by K.M

▼神様のささやき

2年ほど前に SOULNOTE の DA コンバーターD-2 を導入し、以来、私の PC オーディオは満足のいく水準に達することができておりました。しかしながら、メインソースにしていた配信サービス mora qualitas がサービス終了となり、代わりにメインソースとした Tidal は、空間感など mora qualitas に一步譲るところがあって新たな対策が必要となりました。先日、ちょっとした使いこなしについてメーカーに問い合わせをしたところ、光栄にも設計者加藤氏から直接回答メールをいただきました。その末尾には「D-2 は X-3 (クロックジェネレーター) を繋げることで、大化けします。」と神様 (創造主) のささやきが…。

この言葉を信じて試聴することなく X-3 の導入を決めました。

▼実在感、質感が向上し、低音が充実

セッティングは、メーカー推奨の方法に従い、スパイクを設置面に直刺し、付属の電源ケーブルを使用します。クロックケーブルは、別売の推奨品 RCC-1 です。OCXO なので、常時通電で数日しないと本来の性能を発揮しませんが、電源投入直後から音質向上の効果を実感することはできます。通電後、3日くらい経ったところで本来の性能に達したようです。ソースは、Tidal を room で再生し、転送は、BulkPet 4。LAN 経路には、光絶縁ツール EDISCREATION FIBER

BOX2、オーディオ用スイッチングハブ JSPC オーディオ HFS1150 を使用してノイズ対策を行っています。

まず、一聴して音像の实在感が増していることがわかります。切れ味鋭いエッジが立つというのとは違い、滑らかに面取りされた音像の輪郭が感じられるようになりました。くっきりと明確ですが、とげとげしさはありません。音の勢いが増した、という言い方もできるかもしれません。



次に、音の質感が向上します。そもそも D-2 は、奏者が音を出す直前の気配や音色の微妙な変化を描き出すだけの実力を備えているのですが、X-3 を接続した後では、これがさらにハッキリと感じられるようになってきます。映像に例えるなら、HD から 4K への変化といったらよいでしょうか。4K 映像では、特にロングショットで精細さや色の鮮やかさが際立ちますが、フルオーケストラなどの音数の多いソースで X-3 が D-2 の精細感や質感描写をさらなる高みに引き上げる様は 4K 映像を想起させます。

また、低域がさらに充実しました。ぼやけた低音ではなく、芯のある音程のわかる低音です。地響きのような音圧もより強く感じられるようになりました。それまで、我が家のシステムは、どちらかといえばタイトな低音で明晰さや力感は、ありましたが、しなやかさに欠けるように感じていました。X-3 のクロックを注入した後では、音に十分なしなやかさが宿ります。

▼D-2 が大幅にバージョンアップ

良いことづくしの X-3 ですが、推奨クロックケーブルの RCC-1 と合わせて、D-2 とセットにすると合計価格は 100 万円を超えてしまいます。それだけの価値が見出せるか疑問に思われる方もいるでしょう。私は、コストに見合った大幅なバージョンアップを果たせていると思います。

SOULNOTE のフラッグシップ DA コンバーターは、D-3 という型番で数字が増えるごとに上級になっています。X3 を繋いだ D-2 は、D-2.5 という型番の上級モデルに変化したと言いたくなるような向上を感じます。神様のささやき通り、まさしく「大化けした」と言っても良い仕上がりだと思います。

